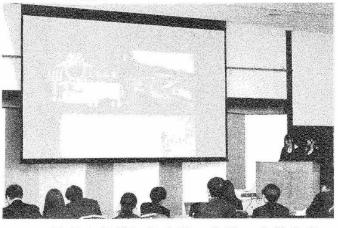
研究部

良研究会 で研究発表



発表する飛騨高山高校

けた取り組み」など、

大垣養老高校の生徒は

ビタミン剤の給与②代

関の担当者ら約70人が参加した。 農林高校、大垣養老高校が参加し、研究の成果を披露した。 全国和牛登録協会岐阜県支部が主催。 (農業高校の部) が開かれた。 県内から飛騨高山高校と加茂 【岐阜・飛騨】高山市のホテルで第13回和牛改良研究会 生徒や生産者、関係機 受け継いできた「とも み系」の増頭だった。 世間にもっと広める」 きな目標に「飛騨牛を 究部の部員10人は、大 を掲げた。その方法の つが、先輩部員から 飛騨高山高校動物研

査。改善するため、

① ある卵巣鍵腫(のうし 的多く、増頭の課題と るが、繁殖障害が比較 系」4頭を飼育してい 部員は、原因の一つで して浮かび上がった。 同校では、「ともみ 究」「北海道全共に向 騨牛の飼育に関する研 加茂農林高校は「飛 る。 鑑にもしっかりと残し ていきたい」と話し できた牛と思いを、後 が、先輩から受け継い たいという思いがあ 騨牛をもっと有名にし さんは「部員には、飛 善可能だと分かった。 回減り、繁殖障害は改 減少。受胎までの平均 なって発情の見逃しが 殖状況が分かりやすく の結果、個体ごとの繁 化――を実施した。そ た繁殖牛の状態の可視 の観察④テープを用い ③個体ごどの発情兆候 人工授精回数が〇・3 発表をした松木仁美 卒業を控えている

改良研究会・農業高校の部

岐阜県内の校収り組

阜県支部の山田英信部 向けた取り組み」など 牛甲子園や県共進会に 長は「発表から、飛騨 を発表した。 全国和牛登録協会岐

謝プロファイルテスト

「2025・26年度和 い」と話した。 らも飛騨牛の若い担い も参考になる事例がた った。経営者にとって 牛に対する思いが伝わ 手を応援していきた

日本農業新聞

令和7年2月26日(水)